



infomation ⑪

## 映画千代子運動

共同発行\*「映画製作を支援する会」事務局  
治安維持法同盟映画千代子チーム  
担当・藤田 = ☎090-4527-1129 fax04-7174-2028 mail:fujitahiro@outlook.com

没後92年—**山宣墓前祭に献花**  
「製作支援の会」・**藤田氏決意こめ**

映画「伊藤千代子の生涯(仮)」製作を支援する会事務局の藤田廣登氏は、3月5日、各地の山宣会が、映画千代子製作運動に積極的に取り組まれていることへの感謝と新型コロナ下でも必ず映画完成を進める決意を込めて山本宣治墓前に献花しました。

### オール山宣会が推薦・賛同へ

「会」は、1928年2月20日の第1回普選で、労農党候補の山本懸蔵の出立資金のために学費の全額を拠出して労農党本部に詰めて闘った伊藤千代子が山本宣治と共に志をひとつにして活躍したこと、さらには、ともに稀代の悪法・治安維持法の犠牲となって斃れたことから、各地の山宣会の積極的な支援、推薦・賛同を要請してきました。

その結果、すべての山宣会の推薦・賛同で映画製作運動が開始されました。

宇治山宣会は上映権2口、東京山宣会は3口を拠出し、長野、大阪山宣会は、それぞれの府県実行委員会に参加して活動されています。

桂監督は、

① 新型コロナに負けない全国的な映画製作資

金づくり・上映権運動が前進し、各地に実行委員会が生まれ始めて、

①製作資金・上映権者は200口と目標の1/4に到達していること、

②元前進座の嵐圭史氏、千代子の後輩の竹下景子氏らの出演協力快諾など運動に弾みが出ていること、

②こうした状況を受けて新型コロナを避けつつ

①撮影開始時期を = 10月10日(1945年、人権指令による政治犯釈放日)を視野に入れて、主演女優やロケ地の選定に入っている、

②製作運動の一環として自弁のエキストラの受入れを検討する

③完成時期を = 2022年3月15日(3.15 記念日)に設定していくことを表明しました。

## 労働者のカンパで創り上げた「武器なき斗い」に学ぶ

浜田 紀男

伊藤千代子は24歳で、性科学者・社会運動家であった山宣こと山本宣治は39歳で稀代の悪法の治安維持法の犠牲者だった。1928(昭和3)年3月15日未明、田中義一内閣は全国21の検事局を動員し、全国一斉に大検挙を行い、1600人をこえる戦闘的労働、農民、インテリゲンチヤを検挙し、400以上の左翼団体の事務所を搜索し、数十万点の書類を押収した。逮捕された人たちは拷問されるなど、とりわけ女性は辱めを受けた。その中の一人が伊藤千代子。

山宣が広く知られるようになったのは、西口克己著『山宣』(1959年、中央公論社)で、本書を読んだ大阪総評青年部長の宮崎守正(1934-2017)が、山本薩夫映画監督の自宅を訪ね映画化を直談判した。山本薩夫は当時は高価の洋酒「ジョニ黒」で応じたという。

映画「武器なき斗い」は全額労働者のカンパ6982万2746円、歴史的な安保闘争の渦中の60年9月12日に、大阪桜橋の産経ホールで完成試写会が行われた。

山本作品で最も現代も観られている作品で、DVD化され、私の特別寄稿が同封されている。

私が藤田廣登さんにお会いしたのは、著書

『時代の証言者 伊藤千代子』(2005年、学習の友社)が発行される前年に、諏訪市龍雲寺に建立されている「伊藤千代子顕彰碑」(1997年建立)の墓前祭だった。藤田さんは、関西労働学校の事務局に関わり、現在は、労働者教育協会理事、治安維持法陪同盟顧問、東京山宣会副会長の役職で活躍されている。

今回本書を読まれた桂壮三郎映画監督により、「伊藤千代子の生涯」(仮)の映画化が進められている。今回の映画製作では、製作資金を賄うため、全国で上映債権を800口募集していることにある。1口10万円で製作費の8000万円を目標としている。10万円の出資者は映画鑑賞者200人までの上映権を取得することが出来る。例えば200人の鑑賞者を千円の入場料を負担していただければ、会場費やチラシ等の宣伝広告を合わせて10万円とすれば、上映債権費はペイ出来るという、映画製作運動の新しい試みである。

配役も伊藤千代子の死を悼み「こころざしつたふれし少女よ 新しき光の中に置いて思はむ」と詠んだ、恩師でもあった土屋文明に元前進座の嵐圭史氏が予定されているという。また、千代子の後輩にあたる竹下景子さんが東京女子大の安井てつ学長役を快諾されているという。注目は千代子に誰を抜擢するかといえる。「校庭に東風吹いて」で、堺市出身の沢口靖子を起用した桂監督の力量に期待している。完成は2020年をめざしている。

(大阪山宣会事務局長・大阪シナリオ学校事務局長)

## エピソード

### 山宣葬儀弾圧の特高警察官が千代子死亡による裁判停止を申請

1929年9月24日未明、伊藤千代子が誰にも看取られることなく東京府立松澤病院で生を閉じた時、警視庁特高課長・上田誠一は東京地裁に、伊藤千代子の「執行停止中被告人死亡診断書」を提出し、裁判の中止を申請した。この文書は、市ヶ谷刑務所未決勾留中、思想検事の「精神的拷問」とも云える執拗な転向攻撃による夫浅野晃の変節との闘いと苦しみの途上に精神的劇症に陥り、執行停止のまま闘病中の伊藤千代子が特高警察の監視下に置かれていたことを示している(『増補版・時代の証言者 伊藤千代子』131頁)。

その上田誠一は、この年の3月、京都府警察にあって、山本宣治葬儀の弾圧と懐柔策をとり、その功もあってか、瀨瀨彌蔵に代わって7月、東京警視庁に栄転してきたばかりであった。

その上田と山宣との関係はどうであったか。

1928年1月下旬、兵庫県特高課長・上田誠一は、29歳の若さで京都府警特高課長として赴任し、直後に、第1回普通選挙の取り締まりと3・15弾圧の指揮に当たることとなった。

労農党候補は、各地で官憲の横暴な干渉とたたかい、京都2区で山本宣治が、1区で水谷長三郎が当選した。

この時、京都府下では、「労農の民衆的議会の獲得」などのビラが電柱に貼り出され、府内の新聞には「不敬不穩の文書、深夜電柱に貼り廻る。特高課長の指揮で川端署大活動、犯人未だ判明せぬ」(2月21日付)とあり、その取り締まりの先頭に上田が立っていることがわかる。

そして迎えた3・15弾圧の総指揮を執ることとなった。この年、1道3府27県で1568人が検挙された。「3・15事件」の発端である。京都では88人が検挙され、次いで18日、22日と拡大され、総数100人を超え、谷口善太郎ほか31人が起訴された。

こうした弾圧の延長線上に迎えた1929年の山本宣治の虐殺死と労農葬であった。3月5日夜、内務官僚に使喚された右翼テロリスト・黒田保久二によって刺殺された山宣の遺骨は9日、上村進、奥村甚之助らの手で京都に還り、上田特高らはそれを駅長室で出迎えた。

そうして3月15日の三条・キリスト教青年会館での「山宣・渡政労農葬」を迎えた。14日から検束が始まり、15日当日は京都駅からの葬送行進も禁止されたが、会場には500人を超える人々が参列した。しかし、小岩井浄の式辞、弔電、告別の辞もことごとく中止させられた。

上田は、「警察本部から自動車を出して、それに遺族が乗り、遺骨を会場に運んで穏やかに葬式を行ってはどうか、と葬儀委員長の奥村君に話した」と語り、自らも制私服警官百数十名を動員して参列者弾圧の先頭に立った。

(上田誠吉『ある内務官僚の軌跡』大月書店、1980年刊を参考にして記述した)

**付記** 戦後、多くの特高・内務官僚が「公職追放」を解かれ保守党の国会議員として政界に進出したが、上田誠一は別の戦後を踏み出し、松川事件の弁護団に加わってその無罪判決のために尽力されたことを付記しておきたい。